

令和7年度 研修実施結果報告

- I 研修講座事業
 - 1 概要
 - (1) 研修講座改善の方針
 - (2) 研修講座の主な変更内容
 - 2 実績
 - (1) 講座数・受講者数
 - (2) 令和7年度に開催した研修講座一覧
 - 3 成果と課題
 - (1) 成果
 - (2) 課題
- II 教育研修員研修事業
 - 1 概要
 - 2 実績
 - (1) 研修員数
 - (2) 研究領域等
 - 3 成果と課題
 - (1) 長期研修
 - (2) 長期社会体験研修
 - (3) 特別研修
- III その他（出前講座による研修支援）
 - 1 実績
 - 2 成果と課題

令和8年4月16日
群馬県総合教育センター

I 研修講座事業

1 概要

群馬県教員育成指標を踏まえて研修を体系化した「ぐんま教職員ステージアップシステム」に基づき、「令和の日本型学校教育」を担う教職員の資質能力の向上に資する研修を実施した。また、群馬県教育ビジョン（第4期教育振興基本計画）の趣旨も踏まえて、非認知能力育成や自分で考え動き出す課題解決能力育成の視点に立った研修を充実させた。

(1) 研修講座改善の方針

- 教職員の学び方向上のための研修デザインの工夫
- 子供や教職員のサポート体制の充実
- 子供たちを自律した学習者へと成長を促す研修の充実
- ウェルビーイングが重なり合う共生社会の実現に資する研修の充実

(2) 研修講座の主な変更内容

① 基幹研修

- 受講者同士の意見交換や課題意識の共有の機会を設定した。
- 自己課題を設定した上で解決策を研究・実践し、それを受講者同士で互いに表現し合う機会を設定した。
- 個別最適な学びと協働的な学びを展開しながら、探究的な学習や单元内自由進度学習等についての先進的な実践事例を共有し、受講者が授業改善の視点を得る機会を設けた。
- 学習指導、生徒指導、学級経営、学校経営等について扱う場面において、焦点を絞りながら“粘り強さ”“やる気”“協調性”“自尊心”等の非認知的な側面を育む具体的な取組事例を共有し、自校に置き換えて手立てを検討する機会を設けた。
- 障害の有無、国籍、性差など一人一人の多様性を尊重する共生社会の実現に向けて、子供たち一人一人の教育的ニーズに応じた支援、さらには全ての子供たちが協働する学びを両立させた教育活動の実践を充実させた。
- 各学校や学級の実態に応じた環境整備や指導法の工夫について、事例を共有したり、検討したりできる場面を設けた。
- 子供たちが本来もっている能力を十分発揮させるために、どのような配慮や指導・支援等を行うことができるのか、事例を共有したり検討したりできる場面を設けた。

② 指定研修

- 「研修履歴記録シート」や「学びの自己診断」の活用法について、管理職研修において紹介するとともに、受講奨励と振り返りが効果的に行われるよう支援した。
- 「教職員の多忙化解消に向けた協議会」からの提言を基に、組織的な業務改善に向けた取組ができるよう推進した。
- 積極的な生徒指導（発達支持的生徒指導、課題未然防止教育）や組織的な対応について事例を共有したり、検討したりできるような場面を設けた。

③ 希望研修

- それぞれの研修目的を踏まえて場面や目的意識に応じた探究型スタイルの研修を設定した。
- 各教科等の研修において、教職員が共通して活用できる教材づくりに取り組んだ。
- 探究的な学習や单元内自由進度学習等の視点から共に单元づくりを体験できるような場を積極的に設けた。
- 「高めよう！教育課題解決能力研修講座」において、指定校の取組事例の横展開を促進する発表・協議を行った。
- 「誰もが学びやすい小・中・高等学校を目指す研修講座」を改称し、「インクルーシブな学校を目指す研修講座」として実施した。
- 「視野が広がる！特別支援教育研修講座」を改称し、「視野を広げる特別支援研修講座」として実施した。
- 「心理検査研修講座」を改称し、「アセスメントスキルアップ講座」として実施した。
- 「生成A I 基礎講座」を改称し、「生成A I 活用講座～実践アイデアの宝庫。第一歩を踏み出そう！～」として実施した。

④ 公開講座

- 「教師力養成講座」を改称し、「未来を創る教員養成セミナー」として実施し、小学生から現職教員まで幅広い層の受講があった。大学生を中心に、現在求められていることを体験的に学んだり、これまでの経験を振り返りながら考えて不安や疑問を質問する場を設けたりすることで、教職の様々な魅力に気付けるよう工夫した。
- 「教員 ReStart 支援講座」を改称し、「教員 ReStart 支援セミナー」として実施し、様々な立場の教員や次年度から教壇に立つ方々の不安感や困り感を解消するために、「群馬県教育ビジョン」や「学級経営の充実」、「児童生徒理解に基づいた生徒指導」、「ICTを活用した授業改善」などに関わる内容を扱い、現在の教育施策が目指していることを学べるよう工夫した。

⑤ その他

- 本センター、および外部機関で開設されているオンデマンドコンテンツ等を一元的にまとめたセンターWeb サイトについて、研修受講時の様々な場面で紹介するなどして、各自で必要な学びを深められるよう支援した。
- 電話・来所・SNS等の相談により子供たちを適切な支援や機関につなげたり、オンラインサポートによって学びの場を広げたりした。また、各研修講座において、教職員を通して子供たちの実態を把握するとともに、それに合った子供たちへのサポート体制ができるよう推進した。
- 各研修講座において、研修担当者と受講者とのやりとりを通して困り感や課題を把握し、様々な機会を捉え対応策を紹介した。また、教職員相談窓口の活用を紹介するとともに、教職員一人一人に寄り添ったサポート体制を充実させた。

2 実績

(1) 講座数・受講者数

() 内は令和6年度

	講座数	開催日数	研修日数	受講者数	受講対象
基幹研修	26 (26)	188 (177)	167 (161)	1,646 (1,703)	経験年数に応じて受講
指定研修	18 (20)	39 (41)	39 (39)	751 (895)	職種・職務に応じて受講
希望研修	42 (41)	118 (121)	115 (119)	2,409 (1,925)	教職員の希望者が受講
公開講座	2 (3)	7 (4)	7 (4)	173 (64)	一般県民を含む希望者が受講
全 体	88 (90)	352 (343)	328 (323)	4,979 (4,587)	

※申込数は延べ人数ではなく、実人数で算出している

(2) 令和7年度に開催した研修講座一覧

① 基幹研修

No.	研修講座名	開催日数	研修日数	受講者数
1	幼稚園等新規採用教員研修	9	9	99
2	小・中学校初任者研修	28	14	262
3	高校初任者研修	15	15	75
4	特別支援学校初任者研修	20	17	45
5	新規採用養護教諭研修	9	9	22
6	新規採用学校事務職員研修	7	7	20
7	県立学校新規採用実習教員研修	6	6	4
8	小・中学校2年目経験者研修	2	1	193
9	幼稚園等3年目経験者研修	2	2	27
10	高校3年目経験者研修	3	3	51
11	特別支援学校3年目経験者研修	5	5	45
12	学校事務職員3年目経験者研修	4	4	14
13	小・中学校4年目経験者研修	4	4	178
14	幼稚園等5年経験者研修	2	2	25
15	小・中学校6年目経験者研修	5	5	205
16	高校6年目経験者研修	5	5	44
17	特別支援学校6年目経験者研修	4	4	40
18	養護教諭6年目経験者研修	5	5	20
19	県立学校実習教員6年目経験者研修	3	3	1

20	幼稚園等中堅教諭資質向上研修	9	9	10
21	小・中学校中堅教諭資質向上研修	11	8	167
22	高校中堅教諭資質向上研修	8	8	53
23	特別支援学校中堅教諭資質向上研修	8	8	31
24	中堅養護教諭資質向上研修	8	8	11
25	中堅学校栄養職員等資質向上研修	4	4	2
26	県立学校中堅実習教員資質向上研修	2	2	2
合計	基幹研修（26 講座）	188	167	1,646

② 指定研修

No.	研修講座名	開催日数	研修日数	受講者数
1	新任幼稚園等園長研修	2	2	9
2	新任校長研修	3	3	103
3	新任副校長・教頭研修	3	3	120
4	新任事務長研修	2	2	13
5	新任幼稚園等副園長・教頭研修	1	1	5
6	新任特別支援学校部主事研修	2	2	6
7	新任教務主任研修	1	1	15
8	新任生徒指導主事研修	1	1	64
9	新任進路指導主事研修	1	1	22
10	新任学年主任研修	1	1	61
11	新任高校特別支援教育コーディネーター研修	1	1	15
12	新任事務長代理・副主幹研修	2	2	14
13	新任事務主任研修	3	3	24
14	特別支援学校新任者研修	3	3	18
15	特別支援学級新任者研修	8	8	151
16	通級指導教室新任者研修	3	3	46
17	新任特別支援学校主任寄宿舎指導員研修	1	1	1
18	特別支援学校寄宿舎指導員研修	1	1	64
合計	指定研修（18 講座）	39	39	751

③ 希望研修

No.	研修講座名	開催日数	研修日数	受講者数
1	国語科研修講座	1	1	78
2	算数・数学科研修講座	3	3	64
3	社会科・地歴公民科研修講座	3	3	36
4	理科研修講座	4	4	67
5	音楽科研修講座	1	1	65
6	図画工作科・美術科研修講座	2	2	54
7	体育科・保健体育科研修講座	2	2	29
8	技術科研修講座	2	2	33
9	家庭科研修講座	2	2	41
10	共通教科情報研修講座	3	3	18
11	道徳科研修講座	1	1	90
12	小学校プログラミング教育研修講座	1	1	31
13	英語科研修講座	1	1	88
14	教務主任研修講座	1	1	19
15	保健主事研修講座	1	1	21
16	学年主任研修講座	1	1	44
17	研修主任研修講座	1	1	56
18	キャリア教育実践研修講座	1	1	33
19	幼児教育と小学校をつなぐ研修講座	4	4	195
20	健康教育研修講座	10	10	62
21	学校事務職員スキルアップ研修講座	8	8	128
22	専門性を高める学校図書館担当職員研修講座	1	1	30
23	県立学校公仕研修講座	1	1	17
24	見る・触れる・体験する環境教育研修講座	1	1	28
25	高校専門教育研修講座	8	8	38
26	ICTスキルアップ研修講座	4	4	113
27	理科実習教員研修講座	1	1	12
28	インクルーシブな学校を目指す研修講座	3	3	79
29	視野を広げる特別支援教育研修講座	2	2	137
30	アセスメントスキルアップ講座	1	1	77
31	生徒指導力向上研修講座	2	2	87
32	外国人児童生徒等教育研修講座	3	3	46
33	食育研修講座	2	2	28
34	高めよう！教育課題解決能力研修講座	5	5	42
35	生成AI活用講座	3	2	153
36	中学校免許外教科担当教員研修講座	1	1	10
37	異校種異動に伴う高校教科指導力向上研修講座	10	10	0

38	高校・特別支援学校臨時的任用教員及び非常勤職員研修講座	1	1	16
39	教育相談初級研修講座	7	5	88
40	教育相談中級研修講座	6	6	51
41	ゲートキーパー養成研修講座	1	1	50
42	教育相談実践充実フォローアップ講座	2	2	55
合計	希望研修（42講座）	118	115	2,409

④ 公開講座

No.	研修講座名	開催日数	研修日数	受講者数
1	未来を創る教員養成セミナー	5	5	172
2	教員 ReStart 支援セミナー	2	2	1
合計	公開講座（2講座）	7	7	173

3 成果と課題

(1) 成果

- 初任者及び新規採用職員研修において、対面での演習やワークショップが受講者間の強固なネットワーク構築に繋がり、同期との連帯感や安心感を醸成する大きな要因となった。講義や授業参観、実技演習では、対象に寄り添った指導の在り方や最新の知見を習得し、実践への具体的な展望を得ることができた。自己課題研修の発表や協議を重ねる中で、自らの役割を客観的に省察し、次年度に向けた成長への意欲と教職への自覚が十分に高まった。
- 経験者研修（2年目～6年目）において、これまでの経験を土台に目の前の業務をこなす段階から、自らの専門性や個性をいかした主体的な実践へとステップアップする姿が見られた。ICT活用や多様なニーズへの対応といった現代的課題に対し、自身が「チーム学校」の中核を担う自覚を持ち、組織全体の運営や後輩育成に貢献しようとする姿勢が醸成された。協議や演習を通じ、他者の知見を柔軟に取り入れることで、課題解決に向けた具体的な実践力を高めることができた。
- 中堅教諭等資質向上研修において、自らの実践を確立した受講者が、「ミドルリーダー」としての役割を再認識したことが最大の成果である。学校経営や組織マネジメント、OJTの視点を学んだことで、若手と管理職の橋渡し役としての自覚が醸成された。また、最新のICT（生成AI等）活用や外部連携、多様な教育課題への組織的対応について、単なる知識の習得に留まらず、自校のグランドデザインと結びつけて具体策を立案する高い実践力を示した。
- 指定研修において、新たな職責を担う受講者が、組織のリーダーとしての自覚と具体的な実践力を高める貴重な機会となった。講義や演習を通して、学校経営や各領域のマネジメントに関する専門知識を深めるだけでなく、事例検討等の対話により、「一人で抱え込まず、チームで対応する」という視座を共有できたことは大きな成果である。同じ立場にある受講者同士で悩みや工夫を語り合う中で、不安を解消し、自校のビジョン実現に向けて前向きに職務に邁進する意欲が醸成された。

- 希望研修において、受講者自らが課題意識を持って参加する本研修の特性が最大限にいかされ、高い有用感を得られた。探究型やワークショップ形式を主体としたことで、「明日からの授業ですぐに試せる」具体的な手立てや教材作成のヒントを直接持ち帰ることができた。校種や職域を越えた「横の連携」により、孤独感の解消や多角的な視点の獲得に繋がった点は大きな成果である。ICT機器の操作や専門的な実技など、当初は「自分には難しいのではないかと不安を抱えていた受講者も、体験的な演習を通して「これなら実践できる」という手応えを得るなど、受講者の主体的なアップデートが着実に図られた。
- 公開講座「未来を創る教員養成セミナー」「教員 ReStart 支援セミナー」においては、小学生から社会人まで幅広い層に対し、教職の魅力と課題の両面を正しく伝える貴重な機会となった。特に現任教員との対話やICT機器を活用した授業づくり演習は、参加者の意欲喚起に大きく寄与した。教員採用試験情報との連携による広報が奏功し、次世代を担う大学生の参加が増加した点は特筆すべき成果である。体験的な活動を通じ、教職を「自分事」として捉え、キャリア形成を促す場として機能した。

(2) 課題

- 多くの研修で、受講者が抱く「横のつながり」への期待と、現場に直結する「実践性」へのニーズが共通の課題として浮き彫りになった。特に孤立しがちな職種の不安解消には、対面やワークショップによる悩み共有が極めて有効である。今後はオンデマンドの利便性をいかしつつも、実施時期の最適化やICT環境を整え、受講者が学んだ内容を「明日からの授業や校務」に即座に還元できる、より具体的でタイムリーな研修計画が必要である。
- 目まぐるしく変化する社会情勢に対応した教職員のキャリア形成を推進させるため、「群馬県教員育成指標」の活用はもとより、「群馬県教育ビジョン」が掲げる目指すべき姿と研修内容との連動性をより一層強めていく必要がある。
- 研修中の見取りや事後アンケートを通じて受講者の実態を多角的に把握し、現場が抱える不安や困り感に寄り添いながら、個々の課題解決を後押しできるよう支援する必要がある。
- 「子供を主語にした学び」や「非認知能力の育成」といった係研究の成果を研修講座にしっかりと反映させ、受講者が「新たな教師の学びの姿」を実感できるような研修デザインや内容の工夫を継続していく必要がある。
- 教職員が体系的・自律的に学べる環境を支えるため、センターWebサイトのコンテンツを整理・更新し、使いやすさを高めていくことが求められる。係研究のページも内容をいっそう充実させ、最新の取組状況をタイムリーに発信し続ける必要がある。
- ウェルビーイングが重なり合う共生社会の実現に向け、特別支援教育や外国人児童生徒等への教育など、多様なテーマの研修をバランスよく展開するとともに、個々の課題に寄り添った内容の充実を図る必要がある。
- 「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」の大切さを丁寧に伝え、教職員の自己課題に応じた主体的な受講をサポートしていく必要がある。自身の成長につながる研修を自ら選べるような雰囲気づくりに努め、学びの意欲を高めていく工夫を図っていきたい。

II 教育研修員研修事業

1 概要

教員の資質能力の向上を図るために、教育の今日的課題の解決や実践的指導力の向上を目指した研究、及び長期社会体験による研修を行い、優れた識見と指導力を身に付けた教育活動の推進者を育成した。長期研修、長期社会体験研修、特別研修の3種類の研修を実施した。

<研修別基本方針>

区分	基本方針
長期研修	本県の教育課題を踏まえた研修を通して、実践的な指導力や助言力を高めるとともに、研究協力校等や地域の中核として指導的な役割を担うことのできる人材を育成する。
長期社会体験研修	企業等における研修を通して、社会的識見や教科の専門性を高めるとともに、本県のキャリア教育の中核として指導的な役割を担うことのできる人材を育成する。
特別研修	授業・保育実践等を通して、教科等の指導力を高めるとともに、研究協力校等や地域において指導的な役割を担うことのできる人材を育成する。

2 実績

(1) 研修員数

	幼稚園	小学校	中学校	義務教育 学 校	中等教育 学 校	高等学校	特別支援 学 校	合計
長期研修	0	12	5	0	0	2	1	20
長期社会体験研修	0	0	0	0	0	2	0	2
特別研修	1	11	8	0	0	9	1	30
計	1	23	13	0	0	13	2	52

(2) 研究領域等

① 長期研修の研究領域

研究領域	人数
非認知能力の育成を図る教育課程、教育活動の工夫	3
児童生徒が自らの学びをつくる学習活動への転換	4
I C T活用による教育イノベーションの推進・学校のD X化	1
共生社会の実現に向けた教育の推進	2
豊かな人間性を育む生徒指導、教育相談の在り方	2
子供に内在する非認知能力の発揮及び伸長を促す架け橋期の教育	1
教員の資質向上、教職の魅力向上に関わる調査研究	2
日本語指導スーパーバイザー (JSV)	5

② 長期社会体験研修における研修先企業

研修先企業	人数
株式会社ミツバ	1
株式会社ヤマダホールディングス	1

③ 特別研修の研修領域

研究領域	人数	研究領域	人数
国語	3	農業	1
社会、地歴、公民	6	工業	1
算数、数学	4	商業	1
理科	3	道徳	3
音楽	1	総合的な学習（探究）の時間	1
体育、保健体育	1	特別活動	1
外国語、外国語活動	1	幼児教育、幼小連携・接続	1
		特別支援教育	2

3 成果と課題

(1) 長期研修

① 成果

- 各研究領域のチームに20名の研修員が所属し、それぞれの研究協力校等においては、群馬県教育ビジョンの趣旨を踏まえ、課題解決に資する研究・調査を推進した。授業改善を進めるとともに、特にAIを活用した校務のICT化、校内研修の体系化、アプリ開発による児童生徒理解の支援等に取り組み、県内学校運営上の諸課題の解決にも大きく寄与した。
- 当センターにおける研修講座や検討会に参画するとともに、研究協力校の校内研修や若手教員に対する授業支援等に積極的に携わることを通して、研修員の実践的な指導・助言力の向上につながった。

② 課題

- 国・県の教育課題の解決に向けて、教育課題別の領域に焦点を当てたチーム研究の深化が求められる。また、その成果の県内への普及を一体的に推進する方法が必要である。併せて、研修運営への参画や研究協力校におけるOJT等を通じて身に付けたスキルを生かし、地域の中核として活躍する場を多く設ける体制の構築が望ましい。

(2) 長期社会体験研修

① 成果

- 企業等における1年間の研修を通して、社会的識見や教科の専門性を高め、本県のキャリア教育の中核的な役割を担うのに必要な知見を得ることができた。
- 企業等での研修を生かした研究協力校における授業実践、研修成果をまとめた「キャリアダイアリー」の発信などを通して、県内のキャリア教育の推進に寄与することができた。

② 課題

- 本県のキャリア教育の更なる充実のため、実践内容や「キャリアダイアリー」の活用を一層推進していく必要がある。

(3) 特別研修

① 成果

- 子供にとって学ぶ必要感のある単元・題材構想を練り、「指導案検討、模擬授業、授業（保育）実践、リフレクション」を繰り返しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図ることで、教科等の指導力を高めることができた。
- 授業公開や実践成果の発信を通して、研究協力校や地域の教職員の教科等の指導力向上に寄与することができた。

② 課題

- 単元・題材構想の検討や実践授業の検証を一層充実させ、教科等の指導力を更に高め、より質の高い授業を普及していく必要がある。

Ⅲ その他（出前講座による研修支援）

1 実績

各学校園、教育委員会や研究所等からの要請を受けて、各種研修会などに指導主事を「研修支援隊」として派遣し、授業研究会での指導助言やワークショップ等の研修支援を行った。参加した教職員の総数は2,582名であった。

分類	件数
幼児教育	0(0)
授業改善	42(18)
生徒指導・教育相談	7(116)
特別支援教育	8(17)
情報教育	22(9)
学校・学級経営	3(7)
その他	0(10)
総計	82(177)

対象（校種等）	件数
幼稚園等	0(0)
小学校	30(77)
中学校	14(63)
義務教育学校	1(1)
高等学校	19(12)
中等教育学校	0(0)
特別支援学校	10(12)
教育委員会等	8(12)
総計	82(177)

地域等	件数
中部教育事務所管内	8(55)
西部教育事務所管内	10(29)
吾妻教育事務所管内	0(10)
利根教育事務所管内	8(12)
東部教育事務所管内	28(44)
県立・組合立学校	28(23)
その他	0(4)
総計	82(177)

※（ ）内は令和6年

令和6年度は「つなぐん・つなサポ支援」を含む

2 成果と課題

- 各学校へのチラシ送付による研修内容の周知を行ったことにより、受講者数は前年度より300名近く増加し、多くの教職員に研修受講の機会を提供することができた。ICTや教育データの活用に関する研修では、生成AIの活用やデジタル教材の効果的な活用に焦点を当て、授業や校務の改善を提案することができた。また、学びの個別最適化や協働的な学びの推進に関する研修の要望も多く、各学校園のニーズに応じた支援を提供することができた。研修支援を通じて、県全体の教育改革に取り組むことができた。
- 各学校園からの要望は多岐に渡る。研修の充実のためには、日々更新される国や県の最新の教育動向の理解とともに、各学校園の正確な実態の把握に努めることが求められている。